



みつわ通信

2017年

11月号

担当 岡崎

冬の準備始まりました。

お世話になっております。11月に入り、当社の生コン車のタイヤ交換が始まりました、この作業が始まると冬も間近だなと感じます。

今回はコンクリートの強度についてのお話をしたいと思います。



当社生コン車のタイヤ交換は社員自ら行っています。

そもそも強度ってどうゆうこと？

コンクリート強度を表現する時N/mm²という単位を使います、お客様が21とか24などと発注されるものです。この強度が実際どれぐらい重さや外圧に耐えられるかはコンクリートを扱う私達でも使用する条件がからみますので、いまいち上手く表現出来ない事が多いです。しかし、出荷する製品の強さを出荷する本人達がわからないのではお客様も困ります。そこで、コンクリート業界では圧縮強度をコンクリートの指標にし、製品呼び方として出荷しています。

圧縮強度。

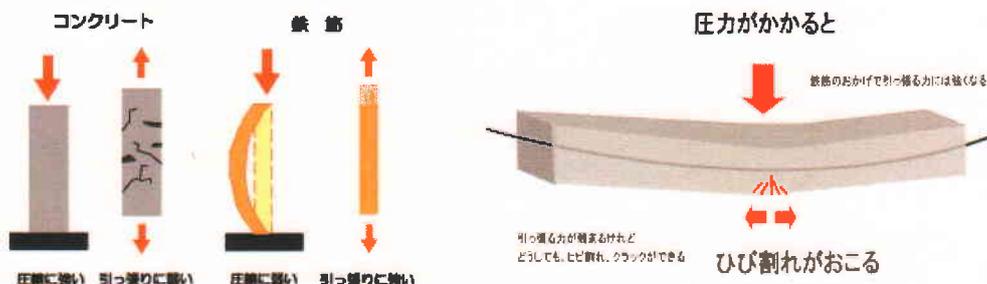
コンクリートの強度は、おなじみの丸い供試体を圧縮試験機にセットし荷重をかけ、供試体が破壊されるまでの荷重を供試体面積で割ったもので、これが圧縮強度と呼ばれるものです。下記が圧縮強度式となります。

$$N \div \text{mm}^2 = N/\text{mm}^2$$

N(ニュートン)は簡単に言いますと圧縮する力です。

例えば、強度21N/mm²のコンクリートが28日の養生で強度が確認されたなら1平方cmあたり210キロまで破壊されません。

しかしこれは計算上でのお話で、コンクリートは引張強度が弱い為、実際の使用や施工においてはコンクリート下地がどのような状態なのかや、乗るものの種類や動きなど、様々な条件を考慮しなくてはなりません。



お気軽にお電話ください♡

コンクリートに関することなら小さなことでも構いません。

Tel 023-686-6032 まで、お電話待ってます。